

友寄英毅先生おめでとうございます。

～友寄英毅先生旭日双光章受章祝賀会～

常任理事 稲田 隆司



左より友寄英毅先生と勝子夫人

平成 24 年 6 月 28 日（木）沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザにて友寄英毅先生の旭日双光章受章祝賀会が和やかに開催されました。

友寄先生のご功績の数々、持続したご活動に対して各地区から多数の先生方が集い、祝いました。

宮城信雄沖縄県医師会長ご挨拶、真栄田篤彦那覇市医師会長によるご業績紹介、新垣善一代議員会議長の乾杯の御発声、崎山八郎沖縄県福祉保健部長の来賓祝辞と、友寄先生の長年に渡る多様な実践、ご貢献が紹介されました。労を

いとわず作業を続けてこられた先生のご功績を拝聴しながら、会場に集まった各々の先生方が友寄先生と協同した事業の数々を思い起こし、敬意を表わしておりました。

「チーム友寄」が一同に会した印象を受けました。友寄先生の謝辞は、これまでをふり返りつつも未来へ向けた御提言、御指摘があり我々も頑張らねばと気持ちを新たにしました。会は盛況でなごりおしくお開きとなりました。友寄先生おめでとうございます。

今後ともますますお元気で御活躍され、ご指導の程をお願い申し上げます。

挨拶

宮城信雄 沖縄県医師会会長



本日ここに、友寄英毅先生旭日双光章受章祝賀会を開催いたしましたところ、多数の皆様にご出席頂き、厚くお礼申し上げます。

友寄先生のご業績は後程詳しくご披露されますが、先生は那覇市医師会・沖縄県医師会役員として長年に亘り会の発展並びに県民の医療・保健・福祉の向上に尽力されたご功績によりこの度の栄誉ある章を受章されております。

友寄先生の輝かしいご功績は、私ども会員はもとより県民だれもが等しく認めるところであり、本県の医療・保健・福祉の歴史を振り返って見たとき、先生がこれまで果たしてきた役割はいかに大きなものであったかを改めて認識するものであり、ここに先生の永年のご労苦に対し沖縄県医師会を代表して深甚なる敬意と謝意を表する次第であります。

さて、皆さまご高承のとおり、国は、長年の医療費抑制政策により崩壊する医療の立て直しを行うべく地域医療再生基金を創出し、都道府県における地域医療再生計画に基づく事業を支援しております。本会では、北部保健医療圏をモデル地域として、脳卒中・糖尿病等の生活習慣病を中心としたそれぞれの疾患における良質な地域医療連携を推進していくための基盤を整備することを目的として「地域医療連携クリティカルパス」を構築いたしました。今後は、県内の医療機関へ展開することを念頭に、地域全体の調整機能を持つ地域医療連携体制の基盤整備や良質な地域医療連携を進めるとともに、地域医療の実態を把握するための情報の一元管理や地域連携クリティカルパスの効率的な運用を目指す情報共有システムの構築に努めることとしております。

また、4月には琉球大学医学部に「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」が設立

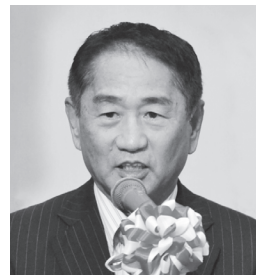
され既に運用が開始されております。当センターは、沖縄県下のすべての医療系学生および医療者を対象としたシミュレーション教育による人材育成と、本県における安定的な医師確保や離島医療の充実、高度医療の習得支援に大きく貢献するものと期待されております。

しかしながら、地域医療の再生に向けて着実に前進してはいるものの、現在、急速に発展する少子・高齢化、多様化する県民の医療ニーズ等、医療を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあり、更には医師不足をはじめ診療科や医師の地域偏在、T P P問題や消費税問題等いろいろな問題が山積みしております。友寄先生におかれましては、なにとぞ今後ともその卓越したご見識によるご指導、ご助言を賜り、県民が希求する安心・安全な医療の構築にお力添え下さいますようお願い申し上げます。

終わりに臨み、永年に亘って先生を支えてこられたご家族の皆様へ深甚なる敬意を表すると共に、皆さまの今後益々のご健勝とご多幸を祈念して私の挨拶とさせていただきます。

業績紹介

真栄田篤彦 那覇市医師会会長



友寄英毅先生、奥様、この度の旭日双光章受章、心からお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

輝かしい数々のご功績の中から主なものを簡単にご紹介させていただきます。先生は、那覇市医師会理事、副会長、会長を合計29年1ヶ月間務められるとともに、県医師会の常任理事を8年歴任されました。特に平成14年4月から平成22年3月までの8年間は、那覇市医師会会長として、医師会事業の発展強化に尽力し、開かれた医師会、親しみを持てる医師会作り大きく貢献されました。

那覇市医師会においては、昭和47年4月に設立された准看護養成の那覇准看護学院を平成5

年4月に「那覇市医師会看護専門学校」として豊見城村へ移転新築する過程で、常任理事として、建設費捻出調達確保、教務職員の確保、新たに学校敷地を確保等、これまでの准看護師養成に加え、医療環境のニーズに応えるべく、正看護師養成が必要と考えて正看護師課程の新設を行いました。また、平成21年4月には看護師3年課程を開設し、従来の准看護学科と看護学科、所謂進学コースを併せて3学科の運営に努め、県下の医療提供体制の向上に貢献されました。

那覇市医師会会長就任時の平成14年4月からは、那覇看護専門学校の学校長も兼任し、学生生徒の資質向上とともに教務職員の能力向上のため県内外の研修・講演会への参加を積極的に行い、那覇看護専門学校の強固なる基盤作りにご尽力され、看護教育に多大なる功績を残しております。

更に、学校保健活動を活性化するには「学校保健委員会」を早期に設置すべきだと主張され、市内のすべての学校に対し「学校保健委員会」の設置を呼びかけております。市教育委員会にも強く要請し、全ての学校で学校保健委員会が発足、学校を取り巻く地域の代表者を交えての学校保健の環境が整備されました。また、学校医の資質向上に向け、全国に習い昭和53年から「那覇市医師会学校保健学校医大会」を企画・実施されました。同時期に「校医研修会」や「学校保健講習会」も実施され、現在に至っております。那覇市医師会の学校保健活動の礎を築いた友寄先生の前向きな行動力と功績は大変意義のあるものであります。

沖縄県医師会においては、平成10年4月から平成18年3月までの8年間にわたり沖縄県医師会常任理事を務められ、会内はもとより関係団体との調整窓口となり、県医師会の会務運営、事業推進の要役として会の発展に多大な貢献を果たされました。

平成11年の医政教習所記念碑の再建、また平成17年度には年間を通して沖縄県医師会の担当により開催した九州医師会連合会諸行事に

において、担当理事としてその手腕をいかんなく発揮され、無事成功裡におさめた功績は多大なものでございます。

更に、昨年3月末、祖国復帰から県医師会館建設に至るまでの36年余に亘る沖縄県医師会の歴史を記した「沖縄県医師会史第2巻」を発刊致しましたが、友寄先生は編纂委員会委員長としてその手腕を遺憾なく発揮されております。因みに友寄先生は、戦争で宮崎県に疎開されたときに、宮崎県の新聞に天才文学少年として紹介される程その文才は誰もが認めるものであります。

会史の内容はこれまでの史書とは一線を画しており、友寄先生の立案によるコラムの章が加えられ、団体史と個人史を盛り込む親しみやすい内容となりました。本書は沖縄県医師会の歴史のみならず、沖縄県の医療史を知るうえでも貴重な存在となっております。

以上のような友寄英毅先生のこれまでの長年に亘るご功績が認められ、旭日双光章受章の栄に浴されております。友寄先生のこれまでの御苦勞に対し、改めて深甚なる敬意と感謝の意を表すると共に、今後とも御健勝でご活躍されん事を祈念いたしまして、簡単ではございますが業績紹介と致します。この度の受章、誠に御めでとうございます。

来賓祝辞

崎山八郎沖縄県福祉保健部長



友寄英毅先生の旭日双光章の受章祝賀会が開催されるにあたり、ごあいさつを申し上げます。友寄先生この度の栄えある受章、誠に御めでとうございます。

心よりお祝い申し上げます。

友寄先生におかれましては、友寄内科胃腸科を開設して地域医療に貢献する傍ら、那覇市医師会の役員を始め那覇市医師会長と共に那覇看護専門学校長を務めるなど、地域医療、保健、

福祉の向上・発展並びに医師会の事業、運営の円滑推進に大きく貢献されてきました。この度は、その保健衛生功勞の御功績に対し深く敬意を表します。

沖繩県におきましては、県民に対する良質かつ適切な医療を効率的に提供するため、「沖繩県保健医療計画」を策定し、医療提供体制の確保及び推進を図っております。本年度は、同計画の見直し時期となっており、精神疾患及び在宅医療に係る医療提供体制の充実及び強化を重点課題とした新たな保健医療計画を、医師会をはじめとする関係者の皆様と協力しながら策定し、県民ニーズに即した保健医療サービスの提供に努めていきたいと考えております。

今後とも一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、栄えある章を受けられました友寄先生のますますの御健勝と御活躍、沖繩県医師会の御発展並びに会場の皆様の御健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

謝辞

友寄英毅先生



本日は受章祝賀会を開催して下さいましてありがとうございます。

皆様にはお忙しい中を遠路はるばる御出席下さり心から御礼申し上げます。

沖繩県福祉保健部長 崎山八郎先生にはご丁寧な御祝詞を賜りましてありがとうございます。沖繩県医師会長 宮城信雄先生、那覇市医師会長 真栄田篤彦先生には過分な業績を紹介して戴き大変恐縮しております。

私のこれまでの医師会活動の殆どは会員の皆様と一緒にやってきたものであり、又、理事会や各種委員会の先生方と一緒に、そして医師会職員の皆様や関係機関の皆様の御協力の下に行ってきた活動であります。これらの活動が評価され、代表として受章しましたので大変あり

がたい事と感謝しております。

沖繩県医師会で最後に携わった「沖繩県医師会史第2巻」の編纂はとても楽しい仕事でした。多くの方々にコラムその他の項目を執筆して戴きましたので医師会事業の記録だけではなく、地域医療から先進医療までを含む「沖繩の医療医学の歴史書」にもなったと思います。執筆者の皆様及び編纂委員会の皆様に心から御礼申し上げます。

「第2巻」が担当した「1972年祖国復帰から2008会館建設まで」の36年は沖繩県の医療界が「本土に追いつけ追いこせ」とばかりに発展向上した時代です。琉球大学医学部設置を頂点として、多くの病院・診療所の整備が進み、医師数も順調に増加しました。最新の医療医学が積極的に導入され、今や沖繩の医療・医学は本土各県と比べてもトップクラスに位置付けられています。この様な飛躍する時代の「沖繩県医師会史」の編纂に参加できました事に大きな喜びを感じています。

那覇市医師会では長年に亘り役員を務めさせてもらいました。県内各地区医師会の御協力を戴きながら40年以上も運営してきた那覇看護専門学校ですが、諸般の事情から学生数の40%を占める准看護学科を閉科することになったのは誠に残念です。現在真栄田会長の下に、看護学科レギュラーコースの増員を計画していますので、これが実現すれば又良い方向に向うと思います。

国保の審査委員も長く務めさせてもらいました。審査委員会の皆さま、職員の皆様に感謝申し上げます。審査委員の業務は医師会員が関わる仕事としては、云わば裏方の役割です。最近、審査委員会の仕事を敬遠する或いは軽視する事例があったと伝え聞いています。審査は診療報酬の支払いに関わる大切な業務ですから、40代、50代の若い先生方は審査委員に推薦されたら積極的に引き受け、真剣に審査し取り組んで下さるようお願い致します。

叙勲のことですが、5月7日に知事公舎におきまして仲井真知事から勲記・勲章を伝達授

表 彰

与され、6月5日には宮中に参内して拝謁の栄
誉を賜りました。豊明殿には、受章者が約500
人程、配偶者、家族の方が同数程、約千人位の
人が参列していましたが、拝謁はとても静かに
おごそかに行われました。この様な一生に一度
の貴重な体験ができたのも皆様のお蔭でありま
す。心から感謝申し上げます。

幸いこれまで家内ともども元気に仕事を続け
て参りました。これからも健康に気をつけなが
ら少しでも何かのお役に立つよう努めて参りたい
と思いますので、今後とも宜しくお願い致し
ます。

本日は誠に有難うございます。



会場風景



左から當山先生、友寄先生ご夫妻、安里先生



友寄先生を祝福する比嘉實先生



左から玉井先生、友寄先生ご夫妻、外間先生



左から山城先生、友寄先生ご夫妻、
照屋先生、知念先生



左から友寄先生ご夫妻、嶺井先生ご夫妻